

凸型林型化による防風林の機能向上

～「おとなりさん」をたずねて、見えてきた課題と目指すべき方向～

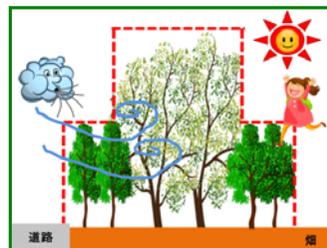
北海道森林管理局 空知森林管理署
一般職員 佐原 菜摘
主任森林整備官 中鍵 貴之

1 課題を取り上げた背景

空知森林管理署管内には約300ヘクタールに及ぶ国有防風保安林があり、農地や地域の暮らしを強風から守る大切な役割を担っています。

しかし、樹木の老齢化による機能の劣化、隣接する農地等への日照障害、落枝・倒木被害が増加するなど、地域から様々なご意見をいただくようになりました。

そこで、この防風林の若返りを図るため、防風効果を損なわず、かつ、農地等への影響を軽減できる方策として、防風林の林型を「凸型」へ誘導する施業をH26年度からスタートしました。



凸型林型のイメージ

2 取組の経過

(1) 「凸型林型」への誘導とその施業方法



「凸型林型」へ誘導するために、第1期は農地等に隣接した部分の林帯幅の約1/3程度を帯状に伐採し、低木性の樹種を植栽します。第2期以降は、第1期の植栽木がある程度成長した段階で、反対側の部分を同様に施業します。そして、第3期は残った中央部を伐採、高木性の樹種を植栽し、「凸型林型」の防風林の完成となります。

(2) 住民説明会等の実施

事業の実行にあたって、有識者のご意見や地域住民の皆さんのご理解・ご協力をいただくために、現地意見交換会や住民説明会等を開催しました。

(3) 「おとなりさん」インタビュー

防風林の「おとなりさん」である地域の皆さんを訪問し、防風林のある暮らしについてインタビュー（写真①）を行い、ここでいただいた様々なご意見を施業に活かしています。



(4) 安全に配慮した特殊伐採

伐採作業にあたっては、隣接する家屋、農地等の安全を確保するため、高所作業車等による「特殊伐採」を行っています。



(5) 防風林での町民植樹祭

事業地を活用し、地元自治体と共催で植樹祭（写真②）を実施。地域の皆さんに防風林へ親しんでもらうと共に、この取組への理解を深めていただいています。

(6) 台風被害等への迅速な対応

日常的な巡視はもとより、倒木等の被害が出た場合は、国有林と地元自治体職員が協力・連携し、迅速な処理作業（写真③）を行い、地域生活への影響が最小限となるように努めています。



3 実行結果

この取組を進める中、施業の実施と併行して防風林の「おとなりさん」を訪ね、お話を伺ったことで、防風林を介した地域の皆さんとのつながりができ、私たちの森林づくりへの良き理解者となっていただくことができました。

また、その中で森林施業と農業との干渉関係の調整、緩和方法の検討など、さらなる課題が浮かび上がってきました。

4 考察

今後も施業の結果等を検証し、地域の皆さんとの対話の中から、課題を1つずつ解決し、「おとなりさん」と共にこの防風林を守り育てていきたいと考えています。